

謹賀新年



(一社)長野県理学療法士会 会長 佐藤博之

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、長野県理学療法士会の活動に際し、ご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

2020年1月に始まった新型コロナウイルス感染症拡大は、もう今年で4年目に入ります。この間、行動は制限されて人と人とのつながりがことごとく絶たれました。閉じこもりが増え、フレイルが増加し、孤独感、不安感、抑うつ感だけが残りました。2020年初頭までは、国や県など地方自治体が中心になり、地域包括ケアシステムを地域住民の皆さんの手で作り上げようと、それぞれの地域で様々な研修会が開催され準備してきました。しかしこの新型コロナウイルス感染症の拡大により、そのすべてが中断してしまったかのように思えます。

2022年を振り返りますと、2月には冬季オリンピック、続いてパラリンピックがあり、日本が輝かしい成績を収めました。そしてロシアのウクライナ侵攻が始まり、今なおその戦争は続いており、原油高や日用品の値上げなど世界中に影響が出ています。

7月には安倍晋三元首相が銃撃され死亡するというショッキングな事件がありました。

11月にはFIFAワールドカップが開催され、ドイツ、スペインを破った日本代表チームの激闘に日本中が沸きました。

気がつけば2025年地域包括ケアシステムの完成年まであと2年です。思い描いていた地域包括ケアシステムは今から再構築できるのでしょうか？物の価値感や物の考え方の変化により、ポストコロナにおいては、以前に描いていたシステム構築は困難のようにも思います。しかし、今だからこそ、喜びや楽しいことがたくさん感じられるようなシステム（社会）を作っていかなければなりません。理学療法士が医療分野をはじめ、介護、保健、福祉、予防、産業など、様々な分野で活躍できるようにしていきたいと思えます。若い皆さんに夢がもてるような社会を提供していかなければならないと思っています。

2024年にはトリプル改定も予定されております。皆さんに有益なものとなるよう、日本理学療法士協会と連携をとっていききたいと思えます。

会員の皆様のご健勝を心からお祈りいたします。本年もご支援、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

副会長 瓜尾 昌恵

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大からほぼ 3 年。初めの年はほとんど中止になった士会事業も、近頃はリモートを中心に活動ができ、またそのおかげで、時間と旅費の節約という利点が生まれました。

士会としては、更にデジタル環境を整備し ICT 活用を進めていきたいと考えています。もちろん、実技研修や会員交流などの必要性も十分に検討していきますので、会員の皆様の色々なお声をいただきたいと存じます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

副会長 平川 和彦

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

私が参加している地域包括ケア推進部においては、引き続きのコロナ禍での活動となりましたが、皆さまのご協力のもと県との連携も進み、少しずつ住民主体の通いの場への派遣や市町村からの依頼が増えています。こういった会員の活動は、利用者や住民に安心をもたらし、地域生活につながる成果をあげております。皆様のご健勝を祈念し、今後も士会事業へのご協力をお願いする次第です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

副会長 林 有理

謹んで新春をお祝い申し上げます。

昨年に引き続き新型コロナの影響で社会情勢は変化し、まだ終息が見えない状況です。そのような中、日々対応してくださっている医療従事者の皆様、会員の皆様に感謝申し上げます。質の高い理学療法を県民の皆様に提供するために研修会等の実施や、保健・医療・介護・福祉・予防分野で理学療法士の役割の重要性について県民の皆様へアピールできるように協会・行政等との連携をすすめて参ります。今後とも本会へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。